

# 映像の有無及び映像と楽曲の意味的調和が楽曲の好悪に与える影響

2032030 大谷我空

指導教員：山崎治 准教授

## 1. はじめに

YouTube といった動画共有サービスや、X(旧 Twitter)といった SNS の普及に伴い、動画の視聴や、自分で作成した動画を発表することが誰にとっても容易となっている。このような動画の中には、ミュージックビデオなどの、音楽を主体としたものもみられ、現在、音楽と映像は密接にかかわりあっているといえる。

音楽と映像の組み合わせに関して、岩宮 [2011]は、音と映像の印象評定実験を行った。その結果、「好き-嫌い」などの評価因子において、音と映像の調和を図ったものについては、印象が良くなる方向へ変化していることがわかった。岩宮 [2011]は、このような音楽と映像の相互作用を、「協動的な相互作用」と呼んだ。

## 2. 目的

本研究では、映像の有無で、その楽曲に対する好ましさに変化するか、さらに、映像と楽曲の印象の一致・不一致(意味的調和)で、楽曲に対する好ましさに変化するかを調べることを目的とする。映像と楽曲の組み合わせについては、「明るい」「暗い」という印象の視点に立つこととする。

## 3. 本調査 楽曲の好悪の調査

一対比較法(中屋の変法)を用いて、映像の有無及び映像と楽曲の意味的調和が楽曲の好悪に影響を与えるかを調べることを目的とした。

### 3.1 方法

**調査対象者：**情報系学科の大学3年生10名(男性8名/女性2名)が明るい曲の評価を、同様に情報系学科の大学3年生11名(男性8名/女性3名)が暗い曲の評価を行った。

**調査内容：**映像が楽曲の好悪に与える影響を調査した。対象は、予備調査で印象評価を行った楽曲(曲のみ)、印象一致の映像付き(一致映像あり)、印象不一致の映像付き(不一致映像あり)とした。

**利用した質問紙：**Google が提供する Google フォームを用いて Web アンケート形式を採用した。一対比較法(中屋の変法)を利用するにあたり、楽曲を用いて対を作成した。また、明るい曲、暗い曲それぞれについてアンケートを作成した。

### 3.2 結果

明るい曲について、各試料の平均嗜好度を心理尺度上に示した図を、図 1 に示す。図の左側にあるほど平均嗜好度が高い。

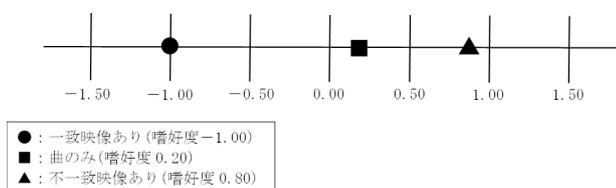


図 1 明るい曲の各試料の平均嗜好度

各試料の嗜好度の中に差があるかを確かめるために、分散分析を実施した。その結果、主効果に5%水準で有意差が見られた( $F(2, 9)=34.02, p<.05, \eta^2=.61$ )。そこで、どの試料間に差があるのかを確かめるために、ヤードスティック法にならった下位検定を実施した。その結果、「曲のみ-一致映像あり」、「一致映像あり-不一致映像あり」の間に、5%水準で有意差がみられた。

暗い曲についても同様に分析を行った。各試料の平均嗜好度を心理尺度上に示した図を、図 2 に示す。図の左側にあるほど平均嗜好度が高い。

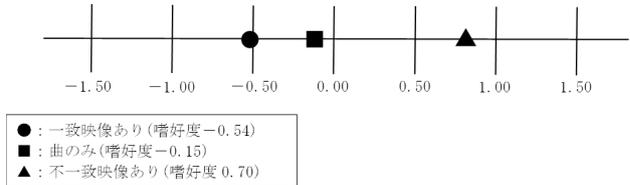


図 2 暗い曲の各試料の平均嗜好度

各試料の嗜好度の中に差があるかを確かめるために、分散分析を実施した。その結果、主効果に5%水準で有意差がみられた( $F(2, 10)=16.88, p<.05, \eta^2=.30$ )。また、主効果×個人においても5%水準で有意差がみられた( $F(20, 10)=3.39, p=.03, \eta^2=.61$ )。そこで、どの試料間に差があるのかを確かめるために、ヤードスティック法にならった下位検定を実施した。その結果、「曲のみ-不一致映像あり」、「一致映像あり-不一致映像あり」の間に、5%水準で有意差がみられた。

## 4. 考察

映像と楽曲の意味的調和について、一致映像ありでは「協動的な相互作用」が生じ、楽曲が印象的なものとなったことで、楽曲に対する嗜好度が上がったと考えられる。

映像の有無について、暗い曲の不一致映像ありでは「協動的な相互作用」が生じず、印象的なものならなかったため、曲のみや一致映像ありと比べて、楽曲に対する嗜好度が下がったと考えられる。

## 5. まとめ

上記の結果より、明るい曲、暗い曲ともに、映像と楽曲の意味的調和を図ること、すなわち、印象一致の映像をつけることで「協動的な相互作用」が生じ、楽曲の嗜好度が上がる可能性が明らかとなった。また、映像の有無については、暗い曲について、印象不一致の映像ならば、つけないことで嗜好度が上がる可能性が明らかとなった。しかし、暗い曲については、個人の嗜好が影響する可能性がある。

## 参考文献

岩宮眞一郎.(2011). 「音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション 改訂版」. 九州大学出版会, p.15-42